

第 11 回霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

日時：平成 22 年 2 月 22 日（月） 13 時 30 分～15 時 30 分

場所：中央区立築地社会教育会館 2 F 講習室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 挨拶

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所 所長 望月 美知秋
東京工業大学大学院理工学研究科教授 池田 駿介

3. 議 事

報告-1 第 10 回評価検討会 議事要旨

議題-1 H21 年度モニタリング結果と今後のモニタリング計画

報告-2 「霞ヶ浦湖岸植生対策技術に関するWG」の報告

事例紹介 「霞ヶ浦における沈水植物再生・保全WG」の紹介

4. 閉 会

〔配付資料〕

資料-1	議事次第, 出席者名簿, 座席表	
資料-2	第10回評価検討会 議事要旨	報告-1
資料-3	H21年度モニタリング結果	議題-1
資料-4	アサザ調査結果について	議題-1
資料-5	今後のモニタリング計画について	議題-1
資料-6	「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全・再生に関する手引き（素案）」	報告-2
資料-7	「霞ヶ浦における沈水植物再生・保全WG」内容	事例紹介
資料-8	境島地区モニタリング結果	事例紹介

第11回 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

出席者名簿

■「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」委員

専門分野	氏名	所属	出欠
環境水理学・流体力学	池田 駿介	東京工業大学大学院理工学研究科教授	出
海岸工学	佐藤 慎司	東京大学大学院工学系研究科教授	出
植物生態学	角野 康郎	神戸大学理学部生物学科教授	出
植物生態学	佐々木 寧	埼玉大学工学部建設工学科教授	欠
陸水生態学・生態毒性学	花里 孝幸	信州大学山地水域環境保全学部門教授	出

■オブザーバー 「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」委員

専門分野	氏名	所属	出欠
応用生態学	桜井 善雄	信州大学名誉教授 応用生態学研究所	欠
保全生態学	鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	出

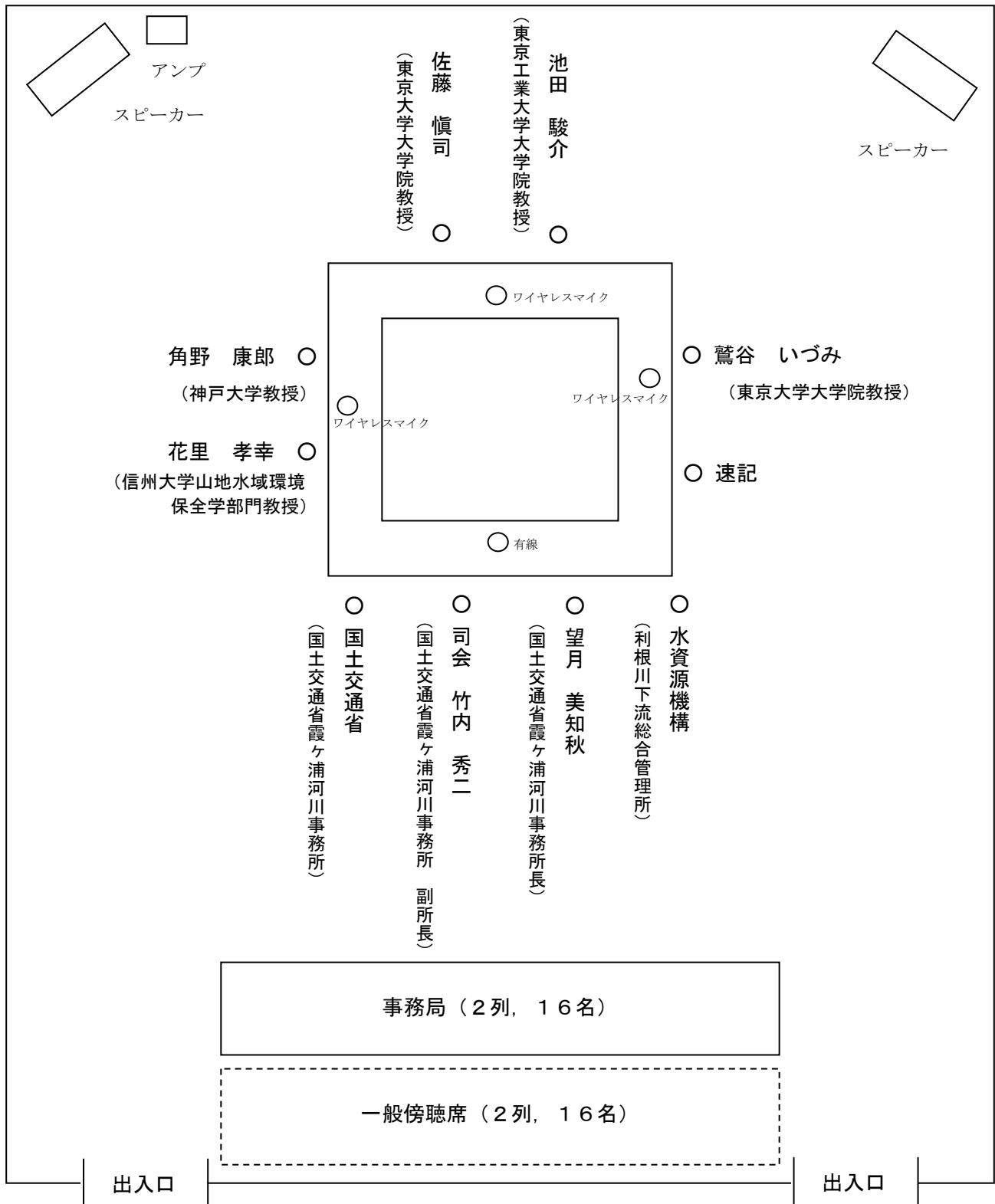
事務局	氏名	所属	出欠
	望月 美知秋	国土交通省 霞ヶ浦河川事務所長	出
	大高 英澄	(独)水資源機構 利根川下流総合管理 (所長代理) 環境課長	出

第11回 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

座席表

平成22年2月22日(月)

中央区立築地社会教育会館2F 講習室



霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

議題の経緯

霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会					
	平成12年度		平成13年度		平成14年度
	第1回 検討会	第2回 検討会	第3回 検討会	第4回 検討会	第5回 検討会
	平成12年11月	平成13年2月	平成13年5月	平成13年12月	平成14年7月
湖岸植生帯の緊急保全対策工の検討	○基本理念 ○植生の現状	○霞ヶ浦の環境の現状と変遷			
		湖岸植生帯の保全・再生に係る仮説の検討			
		○緊急対策地区の選定 ○対策工の構想案	○各地区の対策工構想案	○対策工詳細設計案	
			○事前モニタリング調査計画	○事後モニタリング調査計画	
				○湖岸植生帯の復元方法 ○維持管理手法	
・詳細設計 ・施工 ・モニタリング調査			詳細設計	施工実施	○湖岸植生帯の減退要因の検討
			事前モニタリング調査		事後モニタリング調査



霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会												
	平成15年度		平成16年度		平成17年度	平成18年度			平成19年度			
	第1回 評価検討会	第2回 評価検討会	第3回 評価検討会	第4回 評価検討会	第5回 評価検討会	第6回 評価検討会	第7回 評価検討会	第8回 評価検討会		第9回 評価検討会	第10回 評価検討会	第11回 評価検討会
	平成15年10月	平成16年2月	平成16年11月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年1月	平成19年3月	平成19年7月	平成19年10月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年2月
湖岸植生帯の緊急保全対策の管理評価	湖岸植生帯の緊急対策の概要											
		平成15年度モニタリング調査結果										
		平成16年度モニタリング調査計画	平成16年度調査結果送附版	平成16年度モニタリング調査結果								
				平成17年度モニタリング調査計画	平成17年度モニタリング調査結果							
					平成18年度モニタリング調査計画	平成18年度モニタリング調査結果(送付)	平成18年度モニタリング調査結果	今後のモニタリング調査計画		平成19年度モニタリング調査結果	平成20年度モニタリング調査結果	平成21年度モニタリング調査結果
					○保全検討会の経過の経緯 ○知見のとらえ	中間とりまとめ(案)及び今後の方針(案)	第6回評価検討会における意見	中間とりまとめ(案)				
						第5回評価検討会における経緯				今後のモニタリング調査計画	今後のモニタリング調査計画	今後のモニタリング調査計画
粗朶流出対策		平成16年度粗朶状況調査送付版	平成16年度粗朶状況調査送付版									
			粗朶補修改良計画		粗朶補修改良計画							
見学会	平成15年度現地見学会実施		平成16年度現地見学会実施		平成17年度現地見学会実施		平成18年度現地見学会実施					
										平成20年度現地見学会実施		

図1 「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」および「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」の検討経緯

「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全・再生に関する手引き（素案）」に関わる
“霞ヶ浦湖岸植生対策技術に関するWG” の経緯 と 検討工程計画

5ヶ年間の評価結果をとりまとめた「霞ヶ浦湖岸植生の緊急保全対策の中間評価(平成19年10月)」のP6-2
今後の展開方針より、手引きの必要性、それに伴ったWGの設立趣旨を以下に示す。

霞ヶ浦湖岸植生対策技術に関するワーキンググループ

設 立 趣 旨

霞ヶ浦の湖岸には、妙岐の鼻に代表されるヨシなどの抽水植物を主体とする植生が多く分布し、多様な生物の生息・生育環境となっているなど貴重な空間として残されている。

しかしながら、霞ヶ浦の湖岸全体を見ると、昭和47(1972)年から平成14(2002)年までの30年間で、浮葉植物の分布面積は約30%、抽水植物は約50%まで減少し、沈水植物に至っては、ほぼ消失した状況となっている。

このような状況を受け、平成12年に「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」を設置し、湖岸植生帯の減退要因とその保全・再生対策について検討していただいた。

その検討結果を受け、平成13~14年に緊急的に保全・再生が必要な西浦・北浦の計11地区において湖岸植生帯の緊急保全対策工を整備した。

さらに、平成15年には、この対策事業の評価のために、「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」を設置し、平成19年10月には、整備後5年間(平成14年~18年)のモニタリング調査結果を基に、霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策についての中間評価(以下、「中間評価」という。)が取りまとめられた。

今後、霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全・再生を図っていくにあたり、「中間評価」で得られた知見を基に、施設設計の基本的な考え方、検討に必要な諸条件についてとりまとめた手引き(案)が必要であるため、これについて検討するための「霞ヶ浦湖岸植生対策技術に関するワーキンググループ」を設置するものである。

平成20年11月

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所

霞ヶ浦湖岸植生対策技術に関するワーキンググループ

委員名簿

- 委員 桜井 善雄 (信州大学名誉教授, 応用生態学研究所主宰) (応用生態学)
- 委員 佐藤 慎司 (東京大学大学院工学系研究科教授) (海岸工学)
- 委員 花里 孝幸 (信州大学山岳科学総合研究所教授) (陸水生態学・生態毒性学)
- 委員 望月 美知秋 (国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所長)
- 委員 竹内 秀二 (国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 副所長)
- 委員 岸上 仁 (国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 湖沼環境課長)
- 委員 戸谷 英雄 (財団法人河川環境管理財団 河川環境総合研究所 研究主幹)
- 委員 吉田 高樹 (財団法人河川環境管理財団 河川環境総合研究所 研究第四部長)
- 委員 郡司 篤 (財団法人河川環境管理財団 河川環境総合研究所 研究第四部 次長)

※平成 22 年 2 月時点の委員および役職

検討工程

